2021年(令和3年)11月1日(月曜日)　第 399 号

わかちまん

わか町、わか店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ　http://www.akai-shinbunten.net　<ワイ所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする
P.T.C. GROUP
半田中央印刷株式会社
〒475-0032 愛知県半田市瀬干町1番地の21
TEL 0569-29-2525(代)　FAX 0569-29-4500
http://www.handa-cp.co.jp

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職
―自分ドラマつくろう―(127)　岡田清治

■プロフィール
著者：岡田清治(おかだ・せいじ)
1942年生まれ　ジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)
著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』『心の遺言』
『あなたは社員の全能力を引き出せますか!?リコンで見た!』など多数

※この物語に対する読者の方のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で綴りたいことを記み、一緒に考えます。
FAX 0569-34-7971　メール takamitsu@akai-shinbunten.net

[写真]ホティアオイの自生する風景(著者撮影)

ドラマは続く

るり子が書斎にいるなら、声を荒げながらコロナの感染拡大が怒っていますね」

「そのようだね」

「パパ地下でもクラスターが発生しているといいますから、この感染爆発はどこまで続くのでしょうか」

「これまで国民にはいろい指示してきたが、政府も専門家からも医療従事者に対する要望はたびたびこなかった。コロナ禍が収束するまで、分科会からあらゆる医療従事者に対して強制的にコロナ患者に対応するように政府に申し入れた」

「いまでは自宅療養者が大変増え、急変に対応できず、亡くなる人もおられますね」

「そうなんだ、そこまでさせても政府は動こうとしないのだ」

コロナに加えて、大雨や被害が大変ですね」

「この大候は異常だね。どうも日本の気温は欧米に比べて高いように思うね。ラジオで聞いた、世界中の気温を報告しているが、どうやらヨーロッパと比較、高い印象だが…」

「でも、ドイツでの洪水、トルコなどの山火事を見ていますと、異常気候は世界で起こっていますね」

「そうだな、どこかで友人からきたメール、見るかい」

「ぜひ、お願いします」

―ワクチン狂騒曲―薬を10錠飲むよりも、小から笑った方がずっと効果があるアンネ・フランク)

ワクチンという言葉を聞くにしない日はいつくるのだろうか。毎日のようにワクチン接種率の数字を見たから、一向に感染者が減らないことに疑問視する向きもあるようだ。オリンピック関係者はワクチン接種を済ませてから来日するという報告だったが、感染する数字が毎日のように発表された。

高齢者の多くはコロナのワクチン接種が今かいまかと首を長くして待ち望んでいたようである。高齢者はコロナに感染すると重症化、あるいは死に至る専門家からたえず唱えられての直底にどうついかられた。

政府はワクチンを公平に配送することに注力し、接種は各自治体に任ぜられた。ワクチン接種はやれ配送がうまくいかない、量が不足、大規模接種会場は間にいたらず思うように捗らない。感染者の多くが五十歳以下の若年層だという。それでも若者は緊急事態宣言下での路上飲み食を止めない。飲食店も補償金だけでは店を維持できないと、酒の提供を続けるところも多く、日本列島はワクチンに振り回され続けてきた。

これは少短期間で緩和した方がベターだ。これまで、ワクチンには無理があると接種拒否人がいるさらに二回、打ち比べてなく、これから先、複数回打ち続けるのだ。心配は尽きないのであるワクチンより治療薬ができないことにはどうにもならないと気がするが。

「まったく同感だね」

「日本政府の対応に驚嘆がないように見えますね」

「そろそろ小説の続きを読むね」

「わかりました」

―片桐貴造氏正八年、父・藤太郎と母・しずの間に次男、長男は忠で齊造は上に二人の姉がいた。長女の田鶴子は、歳の時、病魔に襲われ、三回操(さを)四男と信義の二ぞくが続いていた。

母のしずは浜華相撲の藤巳万吉の姉である。万吉は片桐貴造の従兄弟である。父の藤太郎は明治一三一年生まれである。そのころの日本は、近代国家の仲間入りをしようと風威発揚を図って行われたが、有権者は地主か高給取りの上級役人の全国民の二、%とやはりいるものだった。政府は富国強兵策を強力に推し進め、重工業が目覚ましく発達する時代であった。

父の藤太郎は千早尋常小学校から地元の富田林中学校に進んだ。同中学校の第二回卒業生である。学校を出ると、家業の「片桐林業」を引き継ぎ、やがて農協の組合長や千早村の村議会議員などを務めた。

「早うに起きて山に行って、草刈りしてこい」

日曜日の朝、遅くまで寝ていると父の藤太郎は怒った。

金剛山のロープウエイ駅周辺をはじめ、山頂から葛城山にかけて麓たる山林約百町歩を所有していた。杉やヒノキの幼齢林の周囲に生えている雑草の下刈りが齊造ら兄弟の仕事である。林業の機械化は戦木や造林不況の中で、集荷で上〇%に達しているが、ほかの作業ではほとんど進んでいない。手間がかかるのである。山で仕事をする山林労働者は地元では、山びきさんと呼んでいるが、いまでは二十人足らずにまで減っている。

村は都市化の波にのまれ、若い労働者は大阪などに出て行ってしまう。山びきさんの高齢化が進み、後継者難に悩んでいる。

杉やヒノキは大阪と同じだ。植林してから約十年間は雑草の下刈りに大変な労力を要する。人間も十歳ぐらいまでなると、切り出しに使用する山林で、自分で用材として利用できる。大きく育てるには間引きもしなければならない。四十年経っては柱に使用できる。さらに八十年になると、その木は建材として皆伐しなければならない。八十年と長いこと、もう食品も補償金だけでは採算的に良いとは言えない。酒の提供を続けるところも多く、日本列島はワクチンに振り回され続けてきた。

これは少短期間で緩和した方がベターだ。これまで、ワクチンには無理があると接種拒否人がいるさらに二回、打ち比べてなく、これから先、複数回打ち続けるのだ。心配は尽きないのであるワクチンより治療薬ができないことにはどうにもならないと気がするが。

「まったく同感だね」

「日本政府の対応に驚嘆がないように見えますね」

「そろそろ小説の続きを読むね」

「わかりました」

―片桐貴造氏正八年、父・藤太郎と母・しずの間に次男、長男は忠で齊造の上に二人の姉がいた。長女の田鶴子は、歳の時、病魔に襲われ、三回操(さを)四男と信義の二ぞくが続いていた。

母のしずは浜華相撲の藤巳万吉の姉である。万吉は片桐貴造の従兄弟である。父の藤太郎は明治一三一年生まれである。そのころの日本は、近代国家の仲間入りをしようと風威発揚を図って

私の出会った作品(65)

杉本武之

◎北杜夫（その1）

大学2年生の時に『どくとるマンボウ航海記』を読んで以来、私は熱狂的な北杜夫ファンになりました。彼は数多くの作品を書いてきましたが、私はもっぱらエッセイを読むのが好きです。

北杜夫は老成することなく永遠に少年のままでした。だから、いつまでたっても、彼の作品は私にとって、いつもほっとや夢見てもらえる感じを与える作家でした。彼の文章を読むと、私はいつもホッとした気分になります。

彼の生涯を辿ってみましょう。

昭和2年（1927）5月1日、東京で、父・斎藤茂吉の長男として生まれた。本名は斎藤宗吉。父は有名なアララギ派の歌人で青山脳病院の院長であった。母は青山脳病院の創設者・斎藤紀の次女。11歳年上の兄は斎藤茂太。姉と妹が一人ずつ。

父・斎藤茂吉の日記。

昭和9年4月、男・斎藤茂吉の日記。

「五月一日。午前31日輝子、陣痛激しく、夜9時、自動車ニテ、赤十字ノ産院ニ行キ、十時頃、男子安産ス」

昭和9年4月、青南尋常小学校に入学。音楽と体育が苦手だったが、算数と図画は得意であった。

「たかんぞく算術が得手であった。受持ちの先生は福岡先生と言ったが、ある時、私が与えられた問題を、すぐ解くと、『斎藤君は算術の神さまだ』とほめた。休み時間になると、級友が『やい、神さまやーい』とからかって追いかけてくるのを、私は2年上の姉の後ろに隠れて逃げたことがある」（『どくとるマンボウ回想記』）

昭和15年4月、麻布中学校に入学。クラブ活動で理科部博物部に入った。

昭和19年3月、松本高校に入学。

『北杜夫』

戦を迎えた。

昭和23年4月、東北大学医学部に入学。父と二人で夏休みを箱根の山荒で過ごした。

「私は東大医学部だけでも無理だと思ったから、仙台の東北大学を受けた。そこの教授たちが良いことよ、松本高校の同じクラスの友人二人が受けることになったからである。そして、まるで奇跡のように私は合格してしまった」

昭和25年、同人誌『文芸首都』に杜夫のインネームで「文芸首都」を投稿した。

「『文芸首都』という同人雑誌が投稿を受け付ける。いつ、どこで、『自費出版』という10枚の小説を送り、採用されたら、これが杜夫の名を使った初めての作品であった。

昭和27年3月、東北大学医学部を卒業し、同大学付属病院でインターン実習。

昭和28年2月25日、父・茂吉が心臓喘息のため死去。

昭和29年4月、慶應義塾大学医学部に入学。

昭和29年10月、『幽霊』を自費出版。

昭和31年、『文芸首都』7月号の「人工の星」が芥川賞候補作となった。翌年、『夜と霧の隅で』を発表。

昭和33年11月、水産庁漁業調査船「照洋丸」の船医となり、東京湾から出航した。

「私はトーマス・マンを愛していたから、一度ドイツへ行ってみたかった。それで政府交換留学生試験を受けることにしたが、研究論文、その他の書類選考で落とされた。水産庁の船医をさがしているのを知り、思い切って乗船することにした。当時居候していた家では、六百トンの船で北コーリーツバメまで行くのは危ないと反対されたが、私は、『何なんでもの話、若いうちゃ、どんんん苦労しなきゃいけませんん』と賛成してくれた。

昭和34年4月末、『帰国』『新潮』2月号の『谷間』に公論社より刊行。ベストセラーになった。7月、『夜と霧の隅で』が芥川賞候補作となった。

昭和35年4月、『どくとるマンボウ航海記』を中央公論社より刊行。ベストセラーになった。7月、『夜と霧の隅で』で芥川賞を受賞した。

「5月月の航海が終わった時、その話が出版前提になっていたのに、私は、『どくとるマンボウ航海記』を書きたいと考えて、ほとんどを横浜の家にいるあいだに書きあげた。マンの生家はリューベックの港町で、そこで初めはなくまいも生活用の土然としてくるとその力強さを感じ、更に芸術性を高めようと頑張っている。マンの生涯はリューベックの商家から、ブッデンブロック家の人まで、ブッデンブロック家の人は、私はあった。大学時代から、『マンの生涯』を横して自分の家の長編ではあった。大学時代から、『マンの生涯』を横して自分の家の長編ではあった。大学時代から、『マンの生涯』を横して自分の家の長編では

知多の哲学散歩道 Vol.29

「音吉の聖書物語②」

久田健吉（哲学研究者）

私の本のタイトルは『尾州廻船水主（かこ・雑役係）、音吉の哲学的陶冶の物語―音吉表現の「ギュッラプ聖書を読む」』です。第1部「音吉聖書に至る前史」、第2部「音吉聖書の現代語訳」、第3部「音吉聖書の読解」となります。

タイトルの「音吉表現のギュッラプ聖書」はここでの「ギュッラプ聖書」と同じものです。この本では更に「音吉聖書」と呼称していきますので、ここでも音吉聖書と呼称することにします。

この音吉聖書は、すでに翻訳し終えていた日本語聖書を見せながら、ギュッラプが話ことばによる日本語聖書、日常会話による日本語聖書を目指し、音吉に協力を求めてできあがったものです。地物の研究者佐藤宏一氏が「音吉聖書には小野浦方言が見られる」と言っていますので、この理解でよろしいでしょう。

この音吉聖書は、聖書のヨハネ伝を翻訳したものです。このヨハネ伝には何が書かれているのでしょうか。

神は人間が幸せ世界に生きられるように、モーゼを通して、それに至る道として、律法（モーゼの十戒）を示しましたが、今見ると、その律法は、人間を奴隷化する神の意志とは逆の掟になっているのでした。改めさせる必要があります。そこで神は息子のイエスを降臨させ、神の願いは隣人愛にあって、ともに幸せになる極楽世界を創造することにあるとして、イエスにその模範の実践をさせるのでした。それゆゑ、イエスが起こす不思議（奇蹟）はすべて人々が幸せになるためのものばかり。

こうした実践は庶民の心をとらえ、イエスの思想（隣人愛思想）は受け入れられていきます。しかし支配者たちにとっては黙視できないものとなります。イエスの思想は支配から共存へ（隣人愛は共存の思想）ですので。彼らの支配の思想とは相容れません。彼らのイエス攻撃は執拗を極めます。イエスを罪人として裁こうこれを目標とすると至ります。しかしそれは不可能です。隣人愛が評価になるわけがありませんので。形場は、彼らの無法がイエスを磔にしたことを示し、隣人愛思想の不滅を示す場となります。かくして隣人愛の実践は人類の課題として示されるのでした。

以上がヨハネ伝の中味です。

しかしヨハネ伝は宗教書として書かれていますので、隣人愛は神の教えと言います。しかしこの隣人愛思想は、哲学的思考の結果として生まれて来たものなのです。

ヨハネ伝は、人間は「再生」し、イエスを信じ、神から学ぶのでなければ隣人愛の思想は身につかないと言い、その理由は、隣人愛思想は人間世界からは出てこないものだからと言いますが、この隣人愛の思想は哲学的思考の結果として生まれて来たものなのです。

人間は個として生まれ個として生きますので、自己愛なしでは生きていくことはできません。死んでしまいますので。自己愛は前提です。しかし人間は同時に集団としても生きていますので、自己愛だけでは生きていけないことも明らかとなります。まして今高じてジコチュウになればどうしてもとそうです。どうしても共存の心が必要となります。こうして生まれたのが、共存の心としての隣人愛なのです。それゆゑ、ヨハネ伝はこの心は神の教えと言いますが、哲学的思考を踏まえてこう言っていることは明らかです。

この理解はとても大切と思います。この理解は、共存の心こそ哲学の共通の土台と言っていることになりますので。音吉は、聖書の中に、良参寺の寺子屋で学んだ菩薩道は同じものを見て、自分の挫折を克服していきますが、この理解があってのことです。

日々是好日

「秋刀魚の味」22歳のダミ

ダミの取り分

フタ好きな私の分

魚嫌いな家内の分

[写真] 秋刀魚のマーガリン焼きとその配分

フライパンのマーガリンが熱れだったら、半分切って乗せます。秋刀魚を焼く。ちょっと焦がすぐらい。焼いてあげたら皿に取る。そこに焼いてあげたら皿に取る。そこに焼いてあげたら皿に取る。そこに

わが家のニューフェイス

石黒ひかり(2才)　こうせい(5才)　武豊町

しいお兄ちゃんがいるよ。いつも一緒に遊んでいて面白いことを見つけるとニ人でゲラゲラ笑い合っているよ。お休みの日には、家族みんなでお散歩へ行くのが好き。お兄ちゃんは自転車に乗れるからこんにちは、ひかりです。おしゃべりやです。食べることが大好きです。私には、やさしい、私も早く乗れるようになって一緒に走りたいなあ！

写真・文　石黒さき

愛と My Family

大迫澪央(3才)　空央(1才)　常滑市

姉ちゃんがいます。いつも笑わせてくれたり一緒に遊んでくれてありがとう♡大好きだよ♡最近は少しずつ歩けるようになってきたんだ。早くお姉ちゃんとキをつないで歩いたりパパとママと色々な所へ出かけしたいな。これからも仲良くしてね。お姉ちゃん。

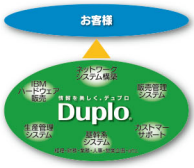
写真・文　大迫里美

僕の名前は、大迫空央です。いたずら好きだけど甘えん坊。僕には二つ年上のお

デュプロ販売株式会社(名古屋)
東海・北陸地区発売元

デュプロは
コンピュータネットワークを活用した、
お客様の新しいビジネススタイル
"e-BUSINESS"を提案していきます。

情報を美しく。デュプロ
Duplo®
from print to documents



デュプロ販売株式会社
〒460-0015 名古屋市中区大井町4番19号　TEL(052)321−2020

訪問集金でお支払いの購読者の皆様へ
口座自動振替払い に切り替えませんか？
お支払いがラクラクあんしん！

メリットたくさん！
◎毎月決まった日に引き落とされるからお金の管理がラク！
◎忙しい時間に手間を取らない！
◎不要な対面を避けられる！

ご利用可能な金融機関
・JAバンク・三菱UFJ銀行
・ゆうちょ銀行・半田信用金庫
・知多信用金庫・西尾信用金庫

中日新聞 あかい新聞店　武豊 0569(72)0356　常滑 0569(35)2861

新聞配達員 大募集

詳細は担当 赤井まで気軽にお問合せください
中日新聞 あかい新聞店　武豊 0569(72)0356　常滑 0569(35)2861